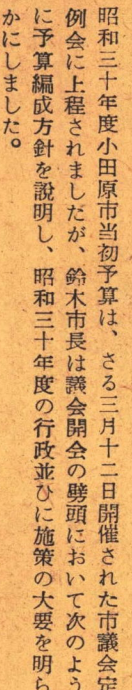


鈴木市長議会で説明



今二十年度は我が小田原市にとつては開期的とも言つべき新しき出発の年であります。即ち、二十九年度的において多年懸案でありました近接の二町四力村との合併が町村合併促進法に基いて遂に実現を見るに至つたのであります。しかもその間全く友愛の精神と深き理解との上に立つて、他に類例を見ざるほど円満にこれが行われ、ここに小田原市の将来の発展の基盤が打ち樹てられましたことはまことに御同慶に供えぬところであります。

計画とそれに併行する諸るに至つていないのである。計画とそれに併行する諸るに至つていないのである。計画とそれに併行する諸るに至つていないのである。

施策との樹立を可能ならしめる大目的の貫徹への途が拓けたものと確信するものであります。即ち生産と消費の調和並びに住民相互の協同体形の拡大強化、更にこれらに伴う総合的行政施策並びに建設事業の推進等、従来細分化された行政規模において容易に解決し得なかつた諸問題に対しても、新たな希望に向す。

るに至つていないのであります。それには先般來の政局の不安定がこの法律の連かな改正を一層困難ならしめた大きな原因であつたことも、否めぬ事実であつたではありましようが、いづれにいたしましても、本市の場合においては、先般の改正が財政的にむしろ不利であつても決して有利になつておらぬことはまことに遺憾なことでありましては決して有利なものとはならず従つて二十九年はこれを解消するよりはむしろ如何にしてその累積を防ぐかという事に努力が向けられなければならないのであります。しかも一方本市の現在は將來的發展へ備えてあらゆる面においての基礎を築くべく重要な時期でもあり、徒らに萎縮し、消極に陥ることとは避けなければならぬこととでありますので、機に處

[illegible]

た多くの懸案の諸事業並に諸施策と併行し、またれと相関連して総合的に慮され、遂行せらるべきのであつて、我々は今後想さるべき幾多の困難を服し、その達成に最善の力をなさんとするものであります。

交付団体として扱われるに至り、歳入の面においては減収を来す結果となつたのであります。

このように先般の改正は地方財政強化を意圖したと称しながらその実、地方の実状には即せざるものが極めて多いのであります。

俣現在予想せられる赤字は約一億円程度と思考されるのでありまして、数字においては累加いたしておりますが、その内容について検討をいたすすなば、合併関係、国体施設費並びに日加工業の土地建物買取り費等特定已むを得ざるものが相当額があり、その他の

かしながら、一方現下の今や全国五百に垂んとする万自治体のおかれており、都市の誕生を見ながら、その実状について、我々の中特殊な例外を除くのはここに深く認識をしなければなりません。二十九年は始どが大小の差こそあれ赤字財政に悩まざるを得当初において、我々は政ぬ美状にあることは否定し行わんとしていた地方得ぬ事実でありまして、本財政諮制度の改革につい市の場合についてこれを見れば二十九年当初におかれたい制度上の矛盾二十八年度への繰上充用点においては、大体二十九年度に持ち越しました赤字は、その累増を防止し得たものと言ひ得ると存じますこの点については各位の御協力を多とするものであります。このように我々は、財政の健全化に対しては今後も常に充分な配慮をもつて臨む決意であります。

な改正を断行すると称し
はありますが、少くとも
なものであり、今後根本
な改正を断行すると称し
はありますが、少くとも
なものであり、今後根本
な改正を断行すると称し
はありますが、少くとも
なものであり、今後根本

かくの如く、現在の客觀情勢は如何なる觀點から見ても極めて複雑なる事情にあるのであります。しかもその間において、本市が新しき發足の才一年を踏み出さなければならぬことは容易ならぬことでありまして、これに對しましては固き決意と

いたしておるものであります。が、その開催基本回数は一応二十九年度の當初と同様八回と見込んで算定をいたしたのであります。

しかしながら、如何にしても現下の經濟情勢のもとにおいては、現在の実績程度の売上は到底困難

充分なる配慮とをもつて臨まざるを得ないのであります。

かかる情勢下において三十年代予算の編成に当ることは最も至難なことでありまして、此の点各位の深き御諒察を得たいと存するのであります。

◇

と考えられますので、二十九年当初步算において見込んだ額と同じく、毎月八千万円程度の売上と見、その収益より前年度と同額の五千三百万円の繰り入れをなすことといたしたのであります。

地方交付税につきましては、合併各町村の交付税予定額を合せ二千六百五

ここに三十年度予算編成方針の大綱を申述べます。

先ず、歳入において、税収並びに税外收入について検討を加えます。に、税収につきましては、市民税は従来と率において変りはありませんが、固定資産税におきましては二十九年度より百分の〇・一の減率となり

これに対し、各都課の要求総額は実に九億六千三百万円余の多額に達したのである。

並びに施策の大要

並びに施策の概要

以上の方針に従つて、本年度の行政並びに施策の概要を述べます。

ついでには、予算外義務負担によつて処理した学校、三中和及び西川中学校

其の面において

文教の面においては、教育委員会も旧新名高校跡に独立庁舎を得て図書館、教育研究所、中央公民館、アメ

リカ文化センターと共に、市の教育センターを形成し学校教育、社会教育両面の一体不可分なる活動を展開いたしておりますが、特に本年度は教育委員会の努力により、合併新市域との密接なる関連のもとにそれぞれ、地域の実情に即応した教育行政に力を注ぎ、徒ら学校に各一学級を存置してと考へておる次才であります。

に都心偏在に陥らざるよう留意しつつ本市教育水準の向上を計る方針でありますなお本年度は合併五十年建設計画の才一年次に相当いたしましたりますが、学校建築中、政府の補助起債を要するものについてこれを当初予算に計上せず、その決定をまつ

更に実績を収むべく力をいたす考でありますし、身体虚弱児に対しては健康管理と施設の中で、健康管理と教育指導の緊密なる運営を企図いたしております

その他学校保健、学校給食教科教具内容の充実整備につきましてもそれぞれ一段と意を注いで参りたいと存

事業につきまし

特に婦人会、青少年団体等
は合併により、ここに大きく
団結がなされたのでありま
すが、合併の意義は単なる
地域人口の拡大に止まるべ
く、合併に伴って将来の都市
建設の基礎をなす重要な幾
多の事業が考へられるので
ありますが、先ず従来継続
の事業について挙げれば、
本市建設事業中最も大事業

きではなして真に住民のある小田原漁港の構築は、
と力との結果が最も重要なる事柄と考えられます。工事着手以来五カ年を経過
で、これらの各團體体に対して、いよいよ防波堤の一部
しては今後その育成強化にを残して、外港の完成を見
んとし、その使用可

力をいたしたと存じます。また本年の団体開催に備へての陸上競技場、庭球場等の建設工事は極めて順調に進捗し、他に類例を見ざる景勝の地に理想的な大総合グラウンドとして將に出現を期して、今後ますます活気づけて参りましたが、地元関係の事情も考慮して、一部の計画を変更すると共に早川沿岸土地区画整理を小

見んとしたり、また、本市のものが完成の曉には本市のもの誇りの一つとして異彩を放つことは明らかなことでありまして、これにより大いにスポーツの振興に役立たしめたといふ所存であります。更に懸案の尊徳会館は百年祭を契機として才一期工事に着手する運びとなりまして、これには莫ならびに、日頃勉勵者なり諸事業として施行し、港湾と相俟つて土地利用の増進を図り、都市の形態を完備しようとするものであります。

本都市計画事業は極めて大規模なものであり、本市としてはかつて見ざる調期的事業であるのみならず多額の費用を、するため本年度より五カ年継続事業として

全国篤志家の熱心な御協力があったことであります。この運営に対しては充分の意を用い、翁の遺徳顯彰につとめたいと存じます。郷土文化館も創設以來日にお来きにも拘らず、各地より來觀者を見、当地方の自然と人文を研究する人々喜び迎へられております。肅手いたすことになつたのであります。なお漁港に關しては、江之浦漁港が漁業協同組合により構築されつつありますがこれが完成の驕には小田原漁港と關連して大いに効用価値を發揮いたすものと考えますのでその促進に対しても協力いたしたいと存じます。

昭和30年3月25日(金曜日)

(才60号)

十二日招集さる

都市計画事業の基礎をすものとして、精密測り、すてに旧市域につては大体完了しており、すので、更に新市域にいてこれを行い、もつて今後の建設事業推進の料作成に当りたいと考下デフレ経済下、重要施策である失業対策事業本所においては、その並びに事業成果において都市に見られぬ成績を認ておりますが、本年度は路整備事業に百名、公共地整備事業に八十名を要し、一層事業の効果を認ると共に社会不安の除ふとめる考えであります。

水道事業

水道事業に関しては昭和十五年度より拡張五カ年度をもつて数年来水源設、配水池増設、配水設等大規模な拡張工事つて参り、これよつて給水需要の増加に対処施設を大抵整へることきましたので、今後ハ戸数の増加をはかつてたい所存であります。しながら、現在国の方においては給水施設に要起債等は認められないてありますのでこの困克服して事業の遂行をべく努力いたしたいと

レ經濟の浸透に
雙法を中心とす

な特に国府津、酒匂地
量する水道敷設の問題
あ域の住民各位の最も
い望されているところ
また今回の合併に際
の問題は是非共三士
つり実施いたすべく建
資中においても緊急の
てり考慮されている
でありますので、日
建設兩省並びに県
充分なる折衝を重ね
るところであります
従つて本年度中には
兩地域住民各位の地
い得ることと信じ
努力をつくす所存
受け

厚生

施策に待つ所

地域に對
應は兩地
を強く熱
心してこ
う年度よ
建設計画
の問題と
るところ
目下厚生
當局とも
なつてあ
るはずや
期待に副
最善の
でありま

幸にして授産
率等の施設も
運営もほぼ軌
保育所も公營
じ全市に亘り
を示し更に新
醸成せられた
の何れもが現
満足すべきで
るので一層内
実を図ると共
人団体を育成
社資金の利用
又内転輸施事
も新しい観
切なる指導を
あります。

住宅対策につ
本市の特に力

片浦地区直営診療所として、旧村時代既に一部の進められておつた実状

土地改良事業について
次計画に基いて農道、
がい用排水、耕地整理
重点的に施行し林道に

は関係団体の数

は年	約六千万円、物産
かん	機関を通じ市が幹
等を	産販売額は約一億
ついで	に達した実績に鑑
事業	も県と共同して国
事業	示会、見本市、博
しま	催し或いはこれら
と関	る等の方法を講ず
	より物産の販路開

えると共に当

販売、輪旋式を関係方面に
旋した物いりましたが、更
五千万円現に努力致す所
み本年度す。
内外の展覧会を開

観

これに対して

販売韓旋式を關係方面に
 旋した物いりましたが更
 五千萬元現に努力致す所
 本年度す。

内外の展覧會を開
 出品する
 ことに
 拓又な韓
 、更に見
 大の原動
 狀に鑑み
 き適切な
 と思いま
 技能者の
 られてお
 染裝技術
 つてある
 指導所と
 を図る所
 は商工会
 、中小工
 合等の相

産業面と關係
 は国体の開催
 多数参加者で
 絶好の機會で
 、これが欲
 を期すると共
 作成して觀光
 に努め、その
 充実、史蹟の
 力を致し併せ
 つては新市
 事も含め新考
 民の慰安とも
 であります。

なお府津地
 方要望してい
 の建設につい
 らみ合せ是非
 に着手したい

観

消

なお県水産指導

土地改良事業について、
 設計画に基いて農道、
 が用排水、耕地整理、
 重点的に施行し林道に
 も威張山林道の継続施
 その他重要林道の開設
 を引き続き行いたいと存
 ず。

畜産は関係団体の整備
 係者各位の熱意により
 益々発展しつつあるこ
 御同慶の至りでありま
 乳牛の預託事業、優良
 の導入等を引続き行い
 畜産物の増産に努めし
 産会の活動を促進し畜
 振興に資したいと考へ
 なお従來の種苗農場
 してはこれを新たに
 指導所として他の適
 移し農家の指導機關
 しめるべく期望され
 おりますがこれに対
 はなお必要と致しま
 で本年度においては
 耕地を確保し将来に
 たいと考えておりま
 水産業におきましては
 業者各位の熱意と努力
 沿岸漁業、沖合漁業
 を脱して遠くセイル
 まで進出の端緒が開
 したことは、かゝる積
 りますが、かゝる積
 勢を一般に醸成する
 の努めと共に船揚場の
 海岸無線局の運営を
 金融対策を伸張し、
 殖事業を奨励し他面
 同組合の育成指導に
 きなお県水産指導所

な
お
工
場
招
致

販売韓旋式を關係方面に
 旋した物いりましたが更
 五千五百円現に努力致す
 本年度の展
 内外の展
 覧會を開
 出品す
 ることに
 拓又な韓
 更に見
 大の原動
 狀に鑑み
 な適切に
 と思いま
 等特産品
 技能者の
 られてお
 滄裝技術
 つていて
 い所であ
 指導所を
 を図る所
 は商工会
 、中小工
 合等の相
 つて初め
 得る所
 円満なる
 と思ひ
 あります
 が通産省
 のため金
 十萬円に
 及ぶ金融
 協力を得
 る本年度
 も一
 をける
 昨他年
 得た小口
 更に円滑
 たいと存
 つては
 今後一層の御

と拜察いたし

販売韓旋式を関係方面に
 旋した物いりましたが更
 五千萬元現に努力致す所
 本年度す。

観

産業面と関係
 は国体の開催
 多数参加者で
 絶好の機会に
 で、これが飲
 を期すると共
 作成して観光
 に努め、その
 充実、史蹟の
 力を致し併せ
 ついても新市
 事も含め新考
 民の慰安とも
 であります。

なお国府津地
 の要望について
 の建設につい
 らみ合せ是非
 に着手したい

消

消防について
 要望に応え、
 防分署を新設
 起債その他の
 ついてめたい
 と。

近時火災の
 火災予防思
 と共に通信
 消防用無線
 実し、火災の
 びに初期防
 の心算であり
 は合併により
 加し、その活
 層拡大せられ
 団員各位の熱
 謝するもので
 今後一層の御
 才であります

水防について
 となる水防
 カ所を数々
 水防熊制は
 ております
 水防資材の
 水防協力会
 災害を最少
 よう努力いた
 じます。

競輪

内外の展
 覧会を開
 に出品す
 ることに
 拓又な韓
 更に見
 大の原動
 状に鑑み
 き適切な
 と思いま
 等特産品
 技能者の
 技術者
 滄装技術
 つている
 い所であ
 指導所と
 を図る所
 は商工会
 は中小工
 合等の相
 つて初め
 得る所で
 円満なる
 いと思

あります
 が通産省
 のため直
 をなした金
 百萬元に
 協力金融
 本年度も
 一とかけ
 るつ
 る昨年
 め得た小
 更に円滑
 たいと存

について
 は芳工場の誘
 資源の確保
 の緩和、中
 に資したい
 致に伴う下
 展並びに酒
 の鴨の宮
 については
 陳情を統
 たがその具
 は、地元と
 これを推進
 います。

三月十七日（二十九日）の選任
（休会）この間に決
びに予算特別委員会
査が行われ、また公
業、厚生、治安、経
建設、文教の各常任

市競輪事 算認定に 議案17 て(一般会 一時	市水道事 算認定に 議案18 て(競輪会 一時	市公益質 算認定に 議案20 て(水道会 一時
-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------

議案28 小田
設置条例の
る条例
議案29 予算
ついて（日
期工事）

議案28 小田原市役所
設置条例の一部を改
る条例
議案29 予算外義務
について(足柄小学
期工事)

より一ますが、
半分をにらみ
ので各成の道
助長し美化を
向上に商店街
価値を一慮を致
るもの又昨年

より一
半分を
ので各
助長し
同上に
働を一
のもの
又昨年度中、市

設備の關係
設備等極めて
り各方面よ
強く要望せら
りますので
由を
者相協力し
促進し加入
と

設備の關係
設等極めて
り各方面よ
亟く要望せ
ありますので
中才十二位
を挙げ本市
ところ亦極

促進し加入

機會に合併以來
と御協力を寄せ
市参との各位に
も厚く御礼を申
才であります。

機会に合併以來多
と御協力を寄せら
市参との各位に対
も厚く御礼を申し
方であります。

[illegible]